

2011年3月12日
ブレーメン州立経済工科大学
アンドレアス・ザイドラー
seidler.andreas@web.de

「日本におけるインターンシップ経験」

人間は刺激が豊かな環境があつてこそ急速に成長する。特に海外での実務研修が成長を促進させる

経験をつみ、理論偏重で弊害が伴いやすい専門知識をプラクティカルな視点から再統合し、実務体験を通じて裏打ちしていく必要がある

事前の目標設定が不可欠。具体的でかつ、達成できたかどうかをはっきり確認できるような目標設定にする必要がある。したがって、現在の問題点をしっかりと把握し、その現実に立脚した目標でなければ無意味だ。

1. 自分を成長させるには

- (a) 知識を習得する (役に立つものを取得する)
- (b) 実践してみる (使うことで実際に役立つ)
- (c) 改善してみる (使い方を工夫し、向上する)
- (d) 目的を明確にする (不要なものは棄てていく)

2. 成長の要素

内的要素 + 外的要素 = 成長

3. 刺激的な環境とは

- 非日常的経験
(異なる 地形・気候・文化・人種・言語・ビジネスマナーなど)

4. ブレーメン州立経済工科大学

- 応用経済言語・国際経営学科
- 経営学・各文化圏の地域特殊事情・ビジネス用語を含む言語の習得
- 1年にわたる海外研修カリキュラム(留学+インターンシップ)

- 実践経験をつみ、理論偏重で弊害が伴いやすい専門知識をプラクティカルな視点から見直す
- 2000年に「ドイツ国内最優秀実践カリキュラム」として表彰

5. CNC Japanでのインターンシップ

- **インターンシップの目標**
 - コンサルティング企業の業務について理解を深めること
 - 自分の分析能力・問題解決能力を高めること
- **CNCでの業務**
 - 取締役のサポート役（市場調査・データ分析）
 - 自分のプロジェクト（クライシスコミュニケーション戦略、買収・合併戦略の策定）
- **CNCで学んだこと**
 - 仕事の取り組み方・プロ意識

6. 衆議院でのインターンシップ

- **インターンシップの目標**
 - 「ソフトスキル」の向上
- **研修での業務**
 - 政調会の準備・代理出席
 - ギリシアにおける金融危機に関する情報収集・情報整理
 - 代表選挙に関わる準備
- **研修で学んだこと**
 - 「根回し」

7. 研修の成果

- 対応能力
- 問題発見能力・問題解決能力
- コミュニケーション能力
- プレゼンテーション能力
- 事前の目的設定が不可欠。具体的でかつ、達成できたかどうかをはっきり確認できるような目標設定にする必要がある。したがって、現在の問題点をしっかりと把握し、その現実に立脚した目標でなければ無意味だ。

以上

英国でのインターンシップ

文京学院大学 外国語学部 3年 及川舞

2010年8月18日から2010年9月17日までの1ヶ月間、英国にてインターンシップを行ってきた。短い期間であったが、良い面でも悪い面でも、日本でのインターンシップでは体験できないであろうことが多くあり、素晴らしい経験であった。そして今回課題となった点は、今後改善され、より多くの方々が海外インターンシップに関心を持ち、貴重な経験をされるきっかけとなってほしい。

<本学外国語学部の海外インターンシップ概要>

- ・研修地： 英国、グアム、中国、台湾、パラオ etc... (英語圏と中国語圏が主)
- ・研修実績：今年度：43名(短期大学を含む)
(・一定の語学力を取得した学生へ大学から奨励金支給制度)

<研修概要>

場所： The Montcalm Hotel Nikko, London

期間： 2010年8月18日~2010年9月17日

勤務形態： 5日間勤務(1日9時間)、2日間休暇

費用：

1. 渡航：¥210,000(航空券) + ¥15,000(災害保険) = ¥225,000
- ¥100,000(大学からの奨励金) = ¥125,000(自己負担)

1'. 現地での交通費：無償(研修先ホテルより、電車・バス乗り放題カード支給)

2. 宿泊：系列ホテル (Best Western Shaftesbury Paddington Court)へ宿泊
宿泊費： 無償

3. 食事：朝食・昼食：宿泊先、研修先から支給 夕食：自己負担

<研修プログラム>

レセプション、ハウスキーピング、スパ、レストランにて各一週間ずつ研修

<海外インターンシップの目的>

- ・就業体験
- ・英語力の向上を図る
- ・異文化理解を深める

<感想>

海外インターンシップに参加し、就業体験だけでなく、机上で学ぶ英語とは違う、生きた英語を学ぶことができた。また、今回の体験を通し、サービスについてだけでなく、英語学習や多くの面で自分の常識や固定概念を見直す良い機会になったと共に、自国を外側から見る力を養え、学習に対する意欲や海外への興味が一段と高まった。そして、私に多くの学びと大きな自信を与えてくれた、海外インターンシップを是非多くの方に体験していただきたいと強く感じた。最後に、今回の貴重な体験は、学校の先生方をはじめ、受け入れ先のホテルの方々など多くの方のご支援、ご協力があったからこそ実現できたものだという事を胸に、感謝の気持ちを忘れず、学んだ事を今後の活動に生かしていきたい。

2011年3月12日
日本インターンシップ学会
関東支部設立記念フォーラム用レジメ
立命館・ブレーメン大学
客員教授 佐藤勝彦

国際インターンシップの展望と課題
海外インターンシップ10年の経験から考える

国際インターンシップは、自分の「未来像」を実現するために描いた「キャリアデザイン」を具体化する有効な手段の一つ

国際インターンシップの成果を高めるにはインターンシップ先での自律的・積極的な貢献に加え大学側による事前・事後の良き指導が肝要

課題となる長期・専門的な国際インターンシップは日本の労働市場に変化をもたらす可能性大

1. 国際交流と国際インターンシップ

- 1) 昔も今も交流の仕方は変わっても交流の結果個人が目指す「何か」は不変
- 2) 「何か」とは交流によって得られる「志(こころざし)」
- 3) 「志」は「生きがい」

2. 国際インターンシップによって学生が得られるもの

- 1) 10年に亘る国際インターンシップの経験
- 2) 学生の内部の力の変化(付加価値は?)
- 3) AIESECの活動・経験
- 4) やはり「生きがい」か?

3. 国際インターンシップの指導

- 1) 事前の指導
- 2) インターンシップ中のアドバイス(ブレーメン経済工科大学からの意見)
- 3) 事後の指導

4. 国際インターンシップの課題

- 1) 職業社会の理解
- 2) 大学教育の中での位置付
- 3) いわゆるグローバル人材とのギャップ

5 . まとめ（そして提案）

- 1) キャリアガイダンスの中での位置付（5-10 年の間国際インターンシップの役割は変化するか？）
- 2) 国際インターンシップを阻害してもの、発展させるもの
- 3) 国際インターンシップと労働マーケット

以上

米国大学のインターンシップ

NPO法人日本インターンシップ推進協会
事務局長 伊藤瑛二

日本インターンシップ推進協会（Japan Internship Promotion Consortium（JIPC））は日本におけるインターンシップ推進のために、ガイダンス、マッチング、事前教育、成果報告会を実施しています。「キャンパスウエブ」、「産学プラザ」や日本インターンシップ学会／関東支部とも連携してインターンシップ情報提供とキャリア教育支援に努めています。詳細は<http://www.jipc.or.jp/>参照。

米国大学におけるインターンシップ・Co-op教育の現状について、Millersville大学、Northeastern大学、Case Western Reserve大学を例に挙げて紹介します。

目的はリアルワールドを知ること、期間はMillersville大学のように短くても15週間、長期ではNortheastern大学やCase Western Reserve大学のように14～18ヶ月と長いことが特徴です。したがって、企業との信頼関係が重要で、長期間の積み重ねで構築しています。

日本のインターンシップは3年・夏休み・2週間が主流で、一部に長期インターンシップが行われています。日本でも長期インターンシップを受け入れる必要があります。

米国ではCEIA（Cooperative Education & Internship Association, Inc.）を中心にしたインターンシップ推進者間の交流活動が大学ネットワークを通して、世界レベル、国内レベル、地域レベルでなされており、日本でも同様な組織的インターンシップ支援活動が期待されます。

ドイツインターンシップの実態とその就職への効果

<はじめに>

海外インターンシップを経験することで...

- 他の留学経験者よりも「優位」となる
- 自身の「興味・関心」、そして「強み」を認識する
- 中長期的なキャリアを考えることができる

<インターンシップ先>

- BLG Logistics (<http://www.blg.de/>)
- 2007年7月23日～9月30日
- 通関部 / 某日系メーカー用ロジスティクスセンター統括部門

<内容>

保税倉庫タイプの比較(研究)、 輸出入通関システムの新規導入補助(実務)

<苦労したこと・失敗>

- 非常の個人主義的な職場環境
- 日本的な「謙遜」の態度でチャンスを逃す

<得られたもの>

- 「分野」における強み(専門性)
- 「経験を得た」ことによる強み(異文化を受け入れる柔軟性、ストレス耐性)
- 目の前の「チャンス」を逃さない積極性 「全く不可能」でない限りは、とりあえず『受け入れる』

<ドイツ及び日本での評価>

- ドイツでの評価: ・ある程度のスタートラインには立てる
- 日本での評価: ・特に、ジェットロと物流企業で評価された
・「欧州・日本間の物流、貿易の実務的な面でスペシャリストになりたい」という主張を支える根拠に

<まとめ>

- 他の留学経験者よりも「優位」となる
 - ・海外インターンシップは非常に有効
 - ・但し、海外へ出発する前の「準備」も必要
 - ・優先的に内定が出る可能性あり
- 自身の「興味・関心」、そして「強み」を認識するきっかけに
 - ・より多角的で柔軟性のある考え方
 - ・ストレスに強くなる
- 中長期的なキャリアを考えることができる
 - ・『もっと先』のゴールへ（「内定」ができれば終わり、ではない）
 - ・インターンシップ経験 + 社会人経験 = 次のステップへ

経営管理学修士課程(マスター) (MAE) 日仏経営センター-コース(CFJM)

MAE の概要

国立大学内に 通常の学部外に特別格につくられた経営管理学院(IAE)がフランスには全国に 30 数校ある。経営管理学マスター(Master de l'administration des entreprises)はその経営管理学院内に創設された専門職大学院の国家免状であり いわゆるフランス版 MBA に当たる。レンヌ第一大学には 1955 年に創設された。

MAE の目的

此のマスターの目的は 企業内の多岐にわたるスタッフと意見交換のできる二重の専門的学識を持った管理職を養成、再教育することにある。すでに自己の大学四年間の専門課程を持つ学生を対象にしており、彼らの企業内におけるスキルアップを図る。組織についての管理能力やさまざまな企業内現場においてリーダーシップを発揮できる専門的学識を持ったエキスパート的人材を養成する。

日仏経営センター-コース(CFJM)

レンヌ経営学院内に フランス貿易省のイニシアチブによって 1992 年に日仏経営センターコースがつけられた。このコースは経営管理学修士課程 MAE の内のひとつである。

CFJM の特色

日本と関わりのある企業、もしくは日本にある企業でマネジメントに従事することを希望する意欲的人材を支援する。

文理融合型のマネジメントコースである。入学には文型 理系を問わない。多様なバックグラウンドを持つ学生、社会人、外国人留学生在が現在、本コースで学んでいる。多様でかつ積極的な人材を募集しており、多くのエンジニア学校とジョイントディグリーの協定を結んでいる。エンジニア学校と本学との時間割を調整したり共通の単位を設けることにより将来のエンジニア達にもマネジメントの専門的学識を提供している。

授業構成

このコースでは日本の社会政治、経済、経営について学ぶ。日本語学習に当てられる時間数は 全部で 472 時間あり内 280 時間は日本で行われる。

大学院修士課程はフランスでは通常 1 年間であるが 本コースは 2 年間である。オリジナルなコース編成で、レンヌで 1 年、日本で 1 年の総計 2 年間である。

レンヌ 1 年目は、

1 学期、基礎科目、

2 学期、国際的観点から見た日本企業のあり方を理解するためのキーコンセプト、分析手法をまなぶ。

3 学期 日本企業のあり方 経済、社会、政治を概観する。

日本での 2 年目は 最初の半年日本語のスキルアップ、あとの半年を企業インターンシップにあてる。日本でインターンシップをすることが必修である。そのために 現地において学生を支援する仕組みになっており、日本企業とコンタクトのあるスタッフを置いている。

入学資格

4 年制大学卒業者、ならびに、法律家、医者、薬剤師、エンジニア、その他の資格保持者。

入学願書受付

6 月と 9 月

書類選考の後 面接が行われる

意欲と、すでに 己のキャリアプランを持つこと、もしくは、日本での起業プロジェクトを持つことが最優先される。強い意思と知的能力が求められる。

面接の後入学が許可される。

日本語学能力は 入学条件ではない。

入学費用

通常の大学登録費用にくわえて CFJM 協会会員として、会に、年間 3000 ユーロ、2 年で総額 6000 ユーロを会費として払い込む。大学内コースではあるが、本コースの特殊性のため非利益団体(CFJM 協会)を同時につくって

おり日本での活動は、この 非利益団体が責任をもっておこなっている。
この非利益団体(CFJM 協会)の主なる発起人メンバーは ブルターニュの企業人達である。此の CFJM 協会のメンバーに本コースの学生は自動的になることにより、すでにある情報網、人脈網を享受することができる。

授業概観

1 学期 (240 時間- 30 単位)

UE1 戦略地政学的な経済情報:

経済学の基礎としての経済情報収集。戦略的な経済情報収集と競合他社の情報。戦略地政学。

UE2 法律マネジメント:

法環境と税務。企業の法的組織構造。

UE3 人的資源管理:

運用および戦略的側面。労働法入門

UE4 財務管理:

企業価値評価のモデル。分析ツール。財務予報。

UE5 マーケティング:

市場調査。マーケティングポリシー。計画と実施。

UE6 サプライチェーンマネジメントとロジスティクス:

生産管理入門。品質へのアプローチとその概念。サプライチェーンマネジメント入門。

UE7 コンピュータ操作:

UE8 情報システム管理とその制御:

会計的情報システムの基礎。通常会計文書。意思決定のための会計的知識。コスト分析。

2 学期 (30 単位)

UE9 経営戦略:

経営思想の変遷。組織内権力。ビジネスモデル

EU10 国際的プロジェクトの構想:

以下の詳細を参照してください

EU11 プロジェクト (1 学期および 2 学期)

EU12A 日仏文明講座:

以下の詳細を参照してください

EU12B(日本にて、必修)

10 月から 3 月まで東京や大阪の語学学校にて日本語学習。総計 192 時間

4月から9月まで企業にてインターンシップ

EU13 日本語：

1年目、フランスにて（10月から5月まで）総計 192 時間

EU10：国際プロジェクトの構想（120 時間）

グローバル化：

伝統的な国際貿易のあり方の失効と新たな戦略への突入。国際化とグローバル化。

国際会計：

演習。IAS IFRS 規格

国際的経営の主要要素：

多国籍環境での交渉と業務。特定地域の特殊性への理解。パートナーシップや提携。

国際財務管理：

知識管理と国際的なリスク管理。主なヘッジ手段と保証機関。リスク管理と資金調達との関係。国際金融のパートナー。

国際的法環境と税務：

共同体の法制。CI規制。国際契約の締結。ジョイントベンチャー。国際問題の解決。国際税務の側面。

国際マーケティング：

国際的なマーケティング手法の特殊性。海外市場での流通経路。インターナショナルな市場調査

UE12A 日仏文明講座（120 時間）

日本の歴史、思想、文化、社会。

日本人論の問題性。市民社会--モザイク国家-"真鍮の三角形"-日本モデルの行き先-日本の未来。

日本のビジネス法：

問題の在り処。権利行使の源泉と手段。契約交渉や紛争交渉での法。知的財産権の専門家と組織。訴訟慣行。

国家機関、制度、政治的社会的権力：

国家権力組織：集権的権力と地方主義の弱点-政治の実態：政治家、その動き、および問題性。

日本の金融：

日本の金融システム：変遷と制度的枠組み。

日本経済：

現代日本経済の長所と弱点。"日本経営モデル"とそのいくえ。対アメリカ合衆国および対ヨーロッパの問題点。

贅沢品のマーケティング：

日本の高級品市場の課題とこの分野で欧米企業の戦略。

日本企業とその経営モデル：

コーポレートガバナンス-生産組織システムと流通システム-政界とビジネス界との関係-企業間関係-雇用慣行と人的資源管理-外資系企業との関係と対外関係。

東北大学との教員交換：

東北大学教授による経済学、経営学の授業：テーマは毎年変更。

外国人留学生受け入れ大国スペイン

発表者：スペイン大使館経済商務部 文化産業担当 金関あさ

要約

スペイン語は世界の 21 カ国で公用語として使われ、4 億人以上が母国語として使用している言語です。日本からもさまざまな目的を持ってスペインに留学する人が増えています。スペインの地理的概要、教育システム、外国人の留学について全般的にお話しをし、詳細の問合せ先などをご案内いたします。

1 スペイン地理的概要

スペインは地域によって気候や風土、文化のみならず、使用される言葉までさまざまです。スペインに留学する目的に一番あった都市を選ぶことが大切です。それぞれの都市や地域の特徴を簡単に説明いたします。

2 スペインの教育システム

幼児から大人まで、スペインの教育課程をご紹介します。

3 外国人のためのスペイン語留学

スペインは毎年 21 万人以上の留学生を受け入れている留学大国です。観光業も発達しているスペインだけあって、外国人へのホスピタリティーがあふれています。外国人をどう受け入れているのか、留学システムやその魅力などをご紹介します。また、スペイン大使館経済商務部が開催しているスペイン語学校の PR 活動についてもご案内いたします。

国際インターンシップで体験できる業種・職種とプログラム事例

インターンシップが社会的に定着している欧米では、豊富な業種・職種が体験可能です。具体的な受入業種・職種と仕事内容例及び、現在実施している国際インターンシッププログラムのコースと概要について発表いたします。

1 欧米におけるインターンシップ

- 1) 国際インターンシップの特徴
- 2) インターンシップで体験できる業種・受入先例

2 日本人学生が体験できる業種・職種

- 1) オーストラリアの受入業種と職種例及び派遣実績企業例
- 2) カナダの受入業種と職種例及び派遣実績企業例
- 3) 工学系インターンシップの仕事内容例

3 インターンシッププログラム概要

- 1) プログラムの概要と代表的なコース
- 2) 実施の流れと選考方法について
- 3) 応募書類について
- 4) インターンシップスーパーバイザ による実習中のフォロー
- 5) 就職活動に役立つ評価表
- 6) 帰国後の就職先例

4 今後の課題

- 1) ボランティアとインターンシップ
- 2) 年々厳しくなるビザの問題
- 3) 語学力
- 4) マッチング

Fly to the Future from AIESEC！ ～夢をかたちにするために～

、なぜ海外インターンシップに行こうと思ったか

前提：アイセックに入会した理由

- ・将来の夢を叶えるために、自分を磨けるフィールドがあると思った
- ・学生でも社会にインパクトを与えるようなキャリアを積みたかった
- ・世界の中での自分自身の市場価値を高めたかった

この三つはインターン参加動機とも重なる。

その後、アイセックジャパン国内での経験を活かし、海外でも成果を残したいという動機が加わった。

<アイセックジャパン国内での挑戦経験（*）>

大学一年時：日本企業の中国進出というビジネスと、日中友好という社会貢献を両立する海外インターンシップを企画し、実現させた。これはアイセックジャパン全国大会で最優秀賞を受けた。また、日中の学生が協働で「香水のブランドを創る」ビジネスコンテストの企画実行委員長も務めた。この時に学んだブランドマーケティング手法が中国でのインターンシップの際に大いに役立った。

大学二年時：日本の教育に問題意識を感じ、グローバル教育推進事業部を立ち上げ、教育系海外インターンシップに従事した。約20名のプロジェクトのなかでリーダーシップをとり、チームとして成果を生み出した。

こうした挑戦経験から、国内社会から海外へ挑戦したいという思いが強くなった。さらに、異なる文化の人とも協働をしてみたい、学生でも海外で成果を残したいと思い、海外インターンシップへの挑戦を決めた。

、中国、インドでの二度の海外インターンシップの内容

研修概要	国：中国
	種類：ビジネス系インターンシップ
	期間：2ヶ月 2010年2月から4月
	機関（企業）名：上海博報堂広告有限公司北京分公司
	仕事内容：広告代理店の様々な部署をまわり、各々の部署の課題に取り組む。様々な部署に関わることを通じて、広告業界の全体像を知る。

	<p>部署：デジタルメディアチーム（WEB 関係）、営業部、企画遂行部（イベント企画運営、CM デザインなど）、管理部、市場戦略部</p> <p>特筆すべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員インタビュー提案・実施 ・80 後と呼ばれる世代をターゲットにした新しいファッション雑誌の提案 <p>国内での香水のブランディングコンテスト企画者の経験を基に、自ら現地マーケティングリサーチを行い、独力でコンセプトを考え、提案した。80 後とは 1980 年代生まれの私と同じ世代の若者を指し、非常に消費が多くこれまでの中国人とは違った価値観を持っている世代であることから世界の国がマーケットとして注目している。自分と同じ世代の若者のマーケティングリサーチを行うことで、感性レベルで中国人を理解することができ、かつ媒体を通じた日中間のビジネスの土台を考えられると思い、この 80 後をターゲットにしたファッション雑誌を考えた。80 後にあたる博報堂社員 30 名に、言葉や色に対するイメージ、消費行動など感性レベルでのアンケート調査を行い、中国の雑誌市場の現状と照らし合わせることで、80 後の感性を捉えた今の中国にはない新しいファッション雑誌を考えた。この雑誌のコンセプトをつくるにあたり、香水のブランディングというアイセック経験で培った坂井直樹氏のエモーショナルプログラムというマーケティングの手法を用いた。</p> <p>博報堂中国法人としても 80 後の研究は行っていたが「かわいくて優雅」という感性を捉えたものは新しいということで、その時の上司であった北京博報堂の副社長の方に認めていただけた。実現化までは遠かったが、最後の最後まで現地で自分なりの成果を残すことにこだわり続けたことは、「将来、世界に喜びを仕掛けられる人になりたい」と考える私にとって大きな自信になった。</p>
研修概要	国：インド
	種類：開発系インターンシップ
	期間：6 週間 2010 年 8 月から 9 月
	機関（企業）名：Chandigarh Social Welfare Board
	<p>仕事内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の子供達への教育活動（英語や音楽を教えていた） <p>特筆すべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・格差問題へのアプローチとして意識調査プロジェクトを立上げ、300 人以上のインド人にインタビュー

	<p>インドの現地NGOで働いていた際、インド社会に広がる大きな格差に問題意識を感じた。現実と向き合い、自分にできることを思考し続けた結果、一日本人の学生として格差に対する現地の声を拾い、それをメディアを通じて「伝える」ことによって解決に近づけようと考えた。</p> <p>NGOの仕事だけでは不十分と感じ、現地で出会った5名の学生に呼びかけ、インド人の生の声を拾う意識調査プロジェクトを立ち上げた。各大学やスラムをまわり、300人以上のインド人に「インドの格差についてどう思うか」「カーストについてどう思うか」「宗教のない国をどう思うか」「幸せとは何か」「自分のキャリアについてどう考えているか」という5つの意識調査を行った。それは、インドの地方紙にも取り上げられ、微弱ではあったがインド社会の問題提起をすることが出来た。しかし、状況が変わるわけではなく無力さも知った。この時、将来は社会を動かせるビジネスを創ろうと決めた。</p>
--	---

、海外インターンシップの醍醐味

- ・ 将来の夢に向けてファーストキャリアを築けた実感
- ・ 社会に対して本気で心が向かった
- ・ 答えのない世界で、自分自身でアプローチを考えて行動することの重要性に気づけた

、経験を基に伝えたいこと

・ 海外インターンシップはただ行くのではなく、現地でどれだけアウトプットを残せたか、インパクトを残せたかが大事。

短期間の研修では、経験が一過性のものになりやすい。だからこそ大事なものは、インターンシップへの取り組み方だと思った。それによって、インターンシップ中の成長速度もインターンシップの先にある将来も変わると思う。

・ インターンシップへの取り組み方を決めるのは、マインド・スキル両面での事前準備。自分の中にどんな問題意識があり、インターンシップで何を達成したいのか、そのために出国前に何をすべきなのか、帰国後インターンシップ経験を将来にどう活かしたいのかを考えておくことは重要。

私の場合、アイセックでの日々の泥臭い挑戦経験(*)や努力がインターンシップ先での成果につながった。アイセック活動が、海外インターンシップに向けた最高のプレパレーションになっていた。